

「がん」のこともっと知りたいと思いませんか？

「がんかわら版」出 前屋プロジェクト.実 施報告書.次年度計画 書

30箇所 54回 558名 2587件 25名 2件 2箇所 2種が数値データ

「がんかわら版」出前屋プロジェクト

代表 三木雅貴

事務局 〒902-0062 那覇市松川 2-4-10-902

T&F 098-884-0345 (留守電対応)

E-mail inomiki1104@tea.ocn.ne.jp

2010/12/03

G

■「がんかわら版」出前屋 プロジェクト実施報告書・次年度計画書■

目 次	2
■本プロジェクトが生まれた背景	4
<input type="checkbox"/> 沖縄県の特異な背景。	
<input type="checkbox"/> がん患者関係者を取り巻く背景。	
■本プロジェクトの取り組む課題と目的	4
<input type="checkbox"/> 本プロジェクトが取り組む課題。	
<input type="checkbox"/> 本プロジェクトの目的。	
■本プロジェクトの本年度目標	5
■本プロジェクトの実行以前に浮かび上がった問題点	5
<input type="checkbox"/> 「一般生活者向けがん情報(冊子)」を纏めたものが見当たらない。	
<input type="checkbox"/> 縦割り行政の歪みに直面。	
■本プロジェクトの実行(実施データ)で確認する	6
<input type="checkbox"/> 実施内容をデータで総括しました。	
<input type="checkbox"/> 各地区の詳細分析データを見る。	
<input type="checkbox"/> アンケート実施結果を見る。	
<input type="checkbox"/> がん普及啓発読本、『「がん」のこともっと知りたいと思いませんか?』シリーズの発刊。	
<input type="checkbox"/> 地域限定『一般生活者向けがん読本「がんかわら版」』発刊。	
■本プロジェクトの効果	8
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト関連の報道掲載を通して「がん普及啓発」を推進。	
<input type="checkbox"/> 様々な立場の生活者からの生の声を行政に届ける。	
<input type="checkbox"/> 「今、沖縄県のがん対策は」と云う演題の「ミニ報告会」で講話。	
<input type="checkbox"/> タバコ対策による公共施設改善を提言。	
■本プロジェクトの成果	10
<input type="checkbox"/> 民間から様々な支援を享受。	
<input type="checkbox"/> 県が「がん対策推進計画」及び「がん対策推進計画アクションプラン」概要版発刊。	
<input type="checkbox"/> 地域公共施設がタバコ対策の改善強化を実施。	
<input type="checkbox"/> 本プロジェクトへの支持。	

■本プロジェクトの結果(課題)	11
<input type="checkbox"/> がん情報冊子が入手苦難に。	
<input type="checkbox"/> 各行政間の情報共有化の推進が課題。	
<input type="checkbox"/> 本プロジェクトの行政との協働による継続。	
<input type="checkbox"/> 行政への「がん対策」提案型アンケートの必要性。	
<input type="checkbox"/> がん地域サポーターの育成の推進。	
■本プロジェクトの展望(未来)	12
<input type="checkbox"/> 本プロジェクトの次年度の展開	
<input type="checkbox"/> 一般生活者・地域行政担当者向けがん普及啓発ミニ講座「がん出前屋講座」の定期開催。	
<input type="checkbox"/> 『「がん」のこともっと知りたいと思いませんか?』シリーズ冊子の充実。	
<input type="checkbox"/> 一般生活者向けがん読本「がんかわら版」の全巻発刊。	
<input type="checkbox"/> 「仮称沖縄県がん対策推進委員会」の設置が急務。	
<input type="checkbox"/> 沖縄独自の小規模多機能介護・ケア施設の開発・設置の提言並びに推進。	
■お手伝い戴いた県内行政窓口一覧	14
■あとがき	14
■資料	15

■「がんかわら版」出前屋 プロジェクト 実施報告書・次年度計画書 ■

本プロジェクトは、

日本医療政策機構 市民医療協議会がん政策センターの「地域発:がん対策市民協働プログラム」との共同事業で「ゆりかごプロジェクト」として、単年度支援金 100 万円で今年スタートしました。

■本プロジェクトが生まれた背景

□沖縄県の特異な背景。

現在、全国・全世界的に情報伝達・情報開示の手段がインターネットへの依存が加速して居ります。沖縄県に置いても同様ですが、市民生活に置いてはちょっと事情が異なり、その恩恵を受けられる方々はほんの一部に過ぎません。その様な現実を把握されて居るにも関わらず、地方行政は情報開示をインターネットに依存し、在る意味、情報開示と云う意味合いに置いては、多くの住民を切り捨てる結果に為って居ると、言わざるを得ない現状に在る様に思われます。

又、沖縄は約 40 の有人島から構成されている特異な地理的条件のため、情報伝達方法が在る意味限定され、情報内容も限られたものに限定され、地方・地域行政の施策の在り方も、長い歴史背景の中、現状、様々な問題を抱えて居ながら、多くの問題点を解消できないで、今日に至って居る様に見受けられます。

□がん患者関係者を取り巻く背景。

県内の、特に女性特有のがん検診では、離島と言われる地域に置いて検診率は確かに好成績です。然しながら、まだ多くの住民に、「がん」と云う病の正しい知識は享受去れて居ないのが現状の様で、其の為、偏見・誤解を始めとする間違った認識がまだまだ多々ある様です。その様な状況が、多くのがん患者関係者を孤立させる原因と為って居るのが実状の様です。又、経済的理由そして特異な地理的条件が、多くの県民を、「がん普及啓発」から背を向けさせる結果と為って居る様に思われます。

そして、「がん対策」も情報が届かない上に、がん医療体制も他県に比べ出遅れており、がん患者関係者が安心して十分ながん医療を受けられるとは、云い難い現状に在ると残念ながら言わざるを得ません。其の上に、医療従事者の「一般生活者向けがん普及啓発」に対する理解度が、今一つで十分とは言い難いのが実情である。

■本プロジェクトの取り組む課題と目的

□本プロジェクトが取り組む課題。

- 「がん」に関する全般的な教育活動及び普及啓発活動
- 「がん検診」に関する知識の普及啓発及び検診受診率を向上させる活動
- 「がん患者関係者」への情報提供及び相談支援
- たばこに関する知識の普及啓発

□本プロジェクトの目的。

最終目的は「がん患者関係者が、一般生活者と何ら変わりなく従来の生活を営まれる様、全ての県民が、がんに罹っても支え合い、がん患者関係者を孤立させない、安心して暮らせる地域社会を実現すること。」とする。

此の目的を達成するが為の、本プロジェクトの当面の目的は、私達プロジェクトの支援活動を通して、地域がん対策サポーターの発掘並びに結成を担い、在宅緩和ケア・施設内がん支援サポーター育成を、行政との協働での支援に取り組み、人的資産の開発にも貢献する。

現状、人の関係作りが最重要課題ではないのかと考え、この2年間は本プロジェクト開催を軸に、「がん普及啓発」推進事業を通じた人と人の関係作りに重点を置き、地道な活動を行っている。

■本プロジェクトの本年度目標

□先ず、「がん対策」情報・「がん普及啓発」情報と言われるものが、こんなに多く存在するのだと云う事を、情報が届きにくい地域で生活を営んでいる県民の方々に知って戴く。

- 「がんかわら版」出前屋の離島圏への出店を、今年度は両大東島地区、宮古島地区、与那国・八重山地区48ヶ所にて行ない、来場者数目標560名を見込む。

□情報の届きにくい地域の方々に、自分達にも「がん」に関連する情報が手の届く処で入手が出来、情報の共有が叶うようになったのだ、と云う実感を得て戴く。

- この離島圏への巡回出店で、既存のがんの様々な情報(冊子)を直接無料配布2500件行なう。

□「がん対策」の重要課題で在る「がん普及啓発」を考えるには、何をどの様にすれば好いのか興味を抱く方達のサポートを行う。

- 本プロジェクトでの現地での協力者5名は獲得し、サポーターの予備軍と為って戴く。

□情報が届きにくい地域の方々の「がん」に関連する生の声を、集約し行政にフィールドバックの上、対策の提言及び実行の協働を担う。

- 開催中口頭アンケートを2案各200件行ない、集約・報告し提言する。

■本プロジェクトの実行以前に浮かび上がった問題点

□「一般生活者向けがん情報(冊子)」を纏めたものが見当たらない。

先ず、このプロジェクトを実行に移す準備段階で発生した問題が、「がん」は国民病、「がん対策」が急務と言われながら、全国の主な「がん対策」関連団体からのがん患者関連情報(冊子)は、在る意味充実した内容で入手が可能です。然しながら、「一般生活者向けがん普及啓発」情報(冊子)と為ると、ほぼ皆無に等しいことが判明しました。

依って、このプロジェクトの中心使命の、一般生活者へがん普及啓発情報(冊子)をお届けすると云う点に、少なからず問題が生じて仕舞うのではないのかと、危惧致し新たに対策が必要と判断致しました。

□縦割り行政の歪みに直面。

現場の、事前調整・リサーチを行なった居り、地方行政と地域行政の役割が縦割り行政の為、この様な前例のない市民活動に、何処が、誰が、どの様に理解・対応して好いのか、関わりをよしとほしない腰を引いた状態に在り、何のための、誰の為の行政なのか、疑問を抱かざるを得ない状況に直面し、残念ではあります、一点、最後まで問題が解決しない事案が残りました。

■本プロジェクトの実行(実施データ)で確認する

□実施内容をデータで総括しました。

- 開催数 目標値 48 回 達成値 54 回
- 開催箇所 目標値 なし 合計 30 箇所
- 来場者数 目標値 560 名 達成値 558 名
- 情報配布件数 目標値 2500 件 達成値 2587 件
- 情報入手に関するアンケート数
目標値 200 件 達成値約 381 件
- 本プロジェクトの是非を問うアンケート数
目標値 200 件 達成値約 277 件
- 地域協力者の獲得数 目標値 5 名 達成値 25 名

□各地区の詳細分析データを見る。

- 各地区の開催日程(カッコ内日数)

ワンクール(前期) 両大東島地区 4/20-22(3) 宮古島地区 2/24-28(5) 与那国・八重山地区 3/29-4/6(9)

ツウクール(中期) 両大東島地区 7/14-16(3) 宮古島地区 6/28-7/3(6) 与那国・八重山地区 7/19-25(7) 前期 8/2-7(6) 後期

サードクール(後期) 両大東島地区 10/26-27(2) 宮古島地区 10/15-20(6) 与那国・八重山地区 10/29-11/3(6) 前期 11/10-11-16(7) 後期

- 両大東島地区

北大東島 開催箇所 1 開催数 3※₂ 回 来場者数 38(6)名 情報配布件数 226 件 協力者数 8 名

南大東島 開催箇所 2 開催数 2※₁ 回 来場者数 12(2)名 情報配布件数 47 件 協力者数 0 名

- 宮古島地区

宮古島 開催箇所 6 開催数 9※₁※₂ 回 来場者数 122(22)名 情報配布件数 543 件 協力者数 3 名

伊良部島 開催箇所 3 開催数 6 回 来場者数 51(11)名 情報配布件数 246 件 協力者数 1 名

多良間島 開催箇所 1 開催数 3 回 来場者数 43(7)名 情報配布件数 221 件 協力者数 2 名

- 与那国・八重山地区

石垣島 開催箇所 6 開催数 8※₁ 回 来場者数 107(11)名 情報配布件数 484 件 協力者数 1 名

竹富島 開催箇所 1 開催数 1 回 来場者数 3 名 情報配布件数 11 件 協力者数 0 名

黒島 開催箇所 1 開催数 3 回 来場者数 19(16)名 情報配布件数 62 件 協力者数 1 名

小浜島 開催箇所 1 開催数 3 回 来場者数 17(4)名 情報配布件数 64 件 協力者数 2 名

波照間島 開催箇所 1 開催数 2 ※₁回 来場者数 10(3)名 情報配布件数 38 件 協力者数 0 名
西表島 開催箇所 4 開催数 8 ※₁※₂回 来場者数 78(10)名 情報配布件数 356 件 協力者数 3 名

鳩間島 開催箇所 1 開催数 1 回 来場者数 15(5)名 情報配布数 92 件 協力者数 1 名

与那国島 開催箇所 2 開催数 5 ※₂回 来場者数 43(6)名 情報配布数 187 件 協力者数 3 名

※来場者数の()内は男性の来場者を表して居ります。

※₁強風・雨・台風の余波により、各地区合計 7 箇所での開催を断念する。

※₂強風・雨・台風の余波により、各地区合計 4 箇所で開催時間の短縮を余儀なくされる。

□アンケート実施結果を見る。

各アンケートは口頭聞き取り調査に為ります。数値は多少の誤差が有ると思われます。

● 情報入手手段に関わるアンケート

[質問内容]

- ① インターネットが利用出来るか？ 見られる環境に在るか？
- ② 今までに、がんに関連する情報に触れることが在ったかどうか？

[回答] 有効回答数 約 381 件

- ① 在ると答えた方 32 名(8.4%)
- ② 在ると答えた方 11 名(2.9%) 殆どの方がテレビ放送以外ではないと回答。

[特徴]

- ① は、相対的に年齢層が高い事も在り、無理からぬ数値かと思われます。携帯電話での利用が出来ると、答えられた方がやや多く見られましたが、メールと誤解されている方が多かったですに思います。
- ② は、ほぼがん患者・家族の方々でした。

● 本プロジェクトの是非に関わるアンケート

[質問内容]

○この様な「がん普及啓発情報」を、今後も一般生活者に届けることは必要か否か？

[回答] 有効回答者 約 277 名 (内地域行政関係者 11 名)

- ① 一般生活者の方々は 36 名が判らない それ以外の方は必要と回答。
- ② 地域行政関係者は 必要 4 名 不要 3 名 判断が難しい(判らない)4 名

[特徴]

- ① 一般生活者の「判らない」と答えて頂いた方の 4 割位は PC をご利用の様でした。
- ② 地域行政関係者の方々の回答は、基本的にどの様に答えれば好いのか？ と云うニュアンスの回答でした。

□がん普及啓発読本『「がん」のこともっと知りたいと思いませんか？』シリーズの発刊。

今年度は、以下のコピー製本冊子を部数限定で発刊、ツール開催から配布致しました。

● 「これが目で見るベストがんさ〜。」 A4 カラー版 35 ページ 100 部限定

最新の厚生労働省大臣統計情報部よりの、全都道府県別・県内市町村別・男女別・がん種別死亡率格

差統計、県内市町村別・男女別・がん腫別検診率統計、各がん腫別死亡率の動向及び傾向概要説明を網羅し、沖縄の実情を把握。

● **にほんここの「がん対策基本法」 B5 モノクロ版 13 ページ 50 部限定**

平成 19 年 4 月 1 日施行の「がん対策」推進の基本を表した法律で、条文そのままをコピーした物です。県民・各行政・医療関係者が、「がん対策」の在り方を考える場に置いて、基本理念と定め各自の責務を明らかにし、早急に「がん対策」推進に取り組む必要性を共有。

□ **地域限定『一般生活者向けがん読本「がんかわら版」』発刊。**

全国でも初と言っても過言ではない、地域密着型がん情報バイブル(20 ページ・オールカラー・B5 判)『一般生活者向けがん読本「がんかわら版」』全六巻の第一巻を、「がんかわら版」編纂室が発刊。全ての費用を県民の支援で賄い、中立な立場で情報を精査編纂し、無料配布を、本プロジェクトのサードワークルから開始、各地区で約 500 部配布。

■ **本プロジェクトの効果**

□ **本プロジェクト関連の報道掲載を通して「がん普及啓発」を推進。**

● **地方新聞 計 6 面掲載**

沖縄タイムス 10/2/7(日)社会面 10/2/11(木)社会面 10/8/23(月)地域版 10/10/13(水)社会面 10/11/1(月)地域版

琉球新聞 10/10/17(日)社会面

● **地域新聞 計 12 面掲載**

宮古新報 10/2/25(木)社会面 10/2/27(土)社会面 10/10/16(土)社会面

宮古毎日新聞 10/2/26(金)社会面 10/7/2(金)社会面

八重山新報 10/4/4(日)社会面

八重山毎日新聞 10/4/3(土)社会面 10/7/22(木)社会面 10/8/4(木)社会面 10/10/30(土)社会面 10/11/2(火)社会面 10/11/14(日)社会面

● **地域テレビ局**

宮古テレビ 10/2/27(土)地域ニュース 10/7/2(金)地域ニュース

● **地方ラジオ**

琉球放送 10/10/12(火)地域ニュース

□ **様々な立場の生活者からの生の声を行政に届ける。**

訪ねた離島 8 島 全開催場所 54 箇所 総来場者 558 名から寄せられた、「がん」情報に関わる生の声を取り纏め県に届けたことにより、「沖縄県がん対策推進計画」「同アクションプラン」概要版を、次年度発刊に持ち込む事が叶いました。

● **がん情報に関するもの**

- ・「がん」と云う病の種類が、こんなに多くあるとは知らなかった。
- ・今までこれらの「がん」情報誌を見たことが無いし、何処に在るのかさえ解らない。
- ・冊子の「がん」情報に限らず、もっと様々な情報が欲しい。

- ・もっと早くにこの様な「がん」情報が手に入れば良かったのに。
 - ・「がん」で死ぬ病気でしょ？ 「がん」で遺伝するのでしょ？
 - ・「がん」のことって相談する処が無いのよね。
 - ・日本にこの様な「がん対策基本法」為る物が在るとは知らなかった。※₁
 - **行政に関わる内容のもの**
 - ・この様な取り組みは行政が取り組むのが普通でしょう？
 - ・行政主催なのか？ 医療機関主催なのか？ 何で民間がやってくれるのか？
 - ・「沖縄県がん対策推進計画」「アクションプラン」が在るなんて初めて知った。※₂
 - **がん医療に関するもの**
 - ・「がん医療者」・「医療機関」の客観的且つ具体的な情報が欲しい。
 - ・「がん」に為ったら何処の病院に行けば良いのか？ 矢張り本島の流大病院なのかな？
 - ・「がん」と云う病に関しては県立宮古・八重山病院では駄目でしょ。
 - ・「がん」に為ったら県内の病院では駄目ですよ？
 - **タバコ対策に関わるもの**
 - ・タバコは肺がんを発症すると聞いているが、実態は如何なのか。
 - ・此方（離島）ではタバコのことをなかなか口にできないが、行政から云ってほしい。
 - ・男性はところ構わずタバコを吸うので如何にかしてほしい。
 - ・沖縄は好きだけれどタバコマナーは最低。アメリカでは16歳以下の子供が同席の処では絶対禁煙よ。※₃
 - **その他のもの**
 - ・無料で在るならば戴きたい。有料ならば少し考えますね。
 - ・どこから（行政・医療関係）来られたのですか？
 - ・“ご苦労様”“がんばって下さい”“ありがとう”と云う声を、何時も掛けて頂きました。
- ※₁ 中学校保健師 ※₂ 関係部署の行政職員 ※₃ 米国出身の在住者

□「今、沖縄県のがん対策は」と云う演題の「ミニ報告会」で講話。

- **10/19(火)15:00~16:10 多良間村主催にて「ミニ報告会」開催。**
参加者 5 名(村役場関係者 3 名 村民 2 名)
※村役場関係者の声
内容も、耳にする用語も、初めて耳にする様な物なので何を質問して良いのか、さっぱり解らない。
今後も開催した方が良いのか如何なのかも何とも言えない。
- **11/15(月)19:30~21:00「がんを県民で考える 100 人会」メンバー主催にて「ミニ報告会」開催。**
参加者 6 名(島民 4 名 関係者 2 名)
※参加者の声
内容が初めてのことで遠くて判りづらいが、資料が是だけ在ればだいたい把握が出来そう。しかし、見方が判らない物も多いが、もっと知りたいので定期的に開催してほしい。
予算のこと等は初めてなので、全国と比較できる資料が在るので判り易い。
- **提供資料一覧**（資料は本プロジェクトが編纂の上、提供）

レジメ 3P・がん対策基本法 13P・国のがん対策推進予算に付いて 11P・沖縄県がん対策と予算に付いて 14P・都道府県別で見る「がんの医療資源」10P・日本のがん条例の現況 10P・「沖縄県がん対策推進基本条例案」がんを県民で考える 100 人会案 6P・沖縄県がん診療連携協議会案 7P・介護保険最新情報(10/25 厚生労働省 老健局老人保健課発行) 6P・「がんを県民で考える 100 人会」への参加ご案内 5P

□タバコ対策による公共施設改善を提言。

健康増進法に基づく伏流煙対策の強化が本年度 4 月から執行されているにも関わらず、実質は何も実行されて居ないのが実情で、タバコ対策による公共施設の早急な改善を、関係機関に申し入れを行った。

- 石垣市公共施設「石垣離島ターミナル」の完全分煙化即実行を、石垣市港湾課に申し入れ。
- 竹富町公共施設「各離島旅客ターミナル」の完全分煙化即実行を、同時に依頼。
- 両大東島・多良間島・与那国島「空港施設」の完全分煙化即実行を、関係部署へ申し入れる様、県福祉保健部医務課に請願。
- 竹富町内各離島公民館の完全分煙化即実行を、関係部署に申し入れる様、県福祉保健部医務課に請願。

■本プロジェクトの成果

□民間から様々な支援を享受。

先ず始めに、此のプロジェクトを様々な形で支えて頂いた方々に、心からお礼を申し上げます。“まだ、十分先の見えない事にお付き合い頂き、本当に、有難う御座いました。”

- **何らかの金銭的支援を戴いた企業・団体・個人**
有限会社安永観光、八重山観光フェリー株式会社、民宿もりたや、
- **開催場所を提供頂いた企業・団体・個人。**
沖縄県農業協同組合両大東支店・宮古島支店各店・伊良部支店・多良間支店、株式会社サンエー、琉球ジャスコ株式会社環境・社会貢献部、狩俣購買組合、まるきスーパー、仲間商店、糸数商店、星野共同売店、金城商店、名石部落共同売店、玉城スーパー、大富共同売店、川満スーパー、星砂スーパー、ふくやまスーパー、
- **その他の人的支援を戴いた企業・団体・個人**
総合型平良スポーツクラブ、多良間シルバーボランティア、黒島公民館館長、小浜公民館館長、鳩間島地区長、民宿二六荘、プチホテルサザンクロス、民宿あけぼの館、民宿アダン、
此のほかに記載のない個人サポーターの皆様、
- **がん情報冊子に関連する支援を戴いた団体・機関**
沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課、宮古福祉保健所、八重山福祉保健所、琉球大学医学部付属病院がんセンター、独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター、財団法人 がん研究振興財団、糸数慶子事務所、

□県が「がん対策推進計画」及び「がん対策推進計画アクションプラン」概要版発刊。

様々な生活者の要望を集約し請願させて頂いた結果、現状では県の「がん対策」の指針と為る「沖縄県がん対策推進計画」そして、その計画を具体的な形に執行するが為の「アクションプラン」を、県民が把握できる概要を取り纏めた冊子の発刊に、漕ぎ着けることができました。

※詳細は現在の処まだ見えて居りませんが、来年度夏場にはご覧戴けるのではないのでしょうか。

地域公共施設がタバコ対策の改善強化を実施。

- 「石垣離島ターミナル」は、完全分煙化対策が取られて居り、快適な環境が提供去れるように為ったが、民間の高速艇内では乗船時間が最長 1 時間にも拘らず、分煙対策は曖昧な表示が為されて居り、まだ不十分と言わざるを得ないのが実情である。
- 「各離島ターミナル」は、形だけの分煙対策が施された箇所がほとんどで、十分な対策が実行されて居るとは云い難い。
- 両大東島・多良間島・与那国「空港施設」は、以前と変わりなく何も対策が講じられて居ない。
- 竹富町内各離島「公民館」では館内に一様灰皿は見られなくなった。

※この様なことから確認出来るのは、各地域行政が本来の役割を真っ当して居ないと云わざるを得なく、生活者の健康に配慮する義務が在りながら、「見ざる、言わざる、聞かざる、」で十分な対策が実行去れないが為の、目に見えない被害は誰が責任を負うのであろうか、疑問を禁じ得ないが、今後も改善強化を随時求めていく必要がある。

本プロジェクトへの支持。

アンケートでもお解かりの様に、本プロジェクトが開催場所を、生活者が気を使わず普通に会話が叶う、民間のスーパー、商店、売店での開催が功を制したと、私達は判断して居ります。スタート時点では地域行政は、なぜ、公民館・保健センター等では駄目なのか、如何しても理解頂けなかったようですが、もし、その助言に従って居たならば、この様な結果には為らなかった様に思われます。

■本プロジェクトの結果(課題)

がん情報冊子が入手苦難に。

本年度より、「国立がん研究センターがん対策情報センター」を始めとする、主な「がん対策」情報機関のがん情報発行物が、配布取りやめ有料化に移行して居り、我々市民ボランティア団体には、大きな負担と為り、円滑な事業活動に支障が及ぶ問題が浮上。行政は最低限の必要な支援は行なうべきではないのでしょうか。

各行政間の情報共有化の推進が課題。

「がん対策」の推進には、全県民を始め地方行政・地域行政の役割を超えた、横断的連携が重要課題と見られ、情報共有化を推進するため、地域行政が後援者と為り県行政と民間共催の、「がん出前屋講座」の様なミニ報告講座を、離島部での定期開催を実現することを、提案したいと思います。

本プロジェクトの行政との協働による継続。

統計・アンケート・来場者の声を総合的に受け止めて、今後の「がん対策」の一環として「がん普及啓

発]のより一層の推進を図るならば、今回のこのようなプロジェクトを行政は民間と協働し、内容の充実に努めるべきではないでしょうか。

何故ならば、今回、このようなプロジェクトを通して、様々な立場で「がん」と云うものを知り、話し、見ることによって、一部の地域一部の人たちの中で、「がん」の事を考える切掛けが生まれようとして居ります。行政単独で取り組むのは、当たり前、やってくれることを待ち、ただ単に従うだけ、誰にも何も残らない様に思われて仕方が在りません。私達は、時間は雇いますが、その様な目を育むサポートが継続し必要だと考え、民間との協働による継続を強く要望いたします。

ちなみに、費用対効果で云うならば、このプロジェクトでの「がん普及啓発」がより浸透推進した場合、結果、健康保険費用の削減にもつながり、高効率の投資になると考えられます。

□行政への「がん対策」提案型アンケートの必要性。

今回はより踏み込んだ記載型のアンケートを試みたいと考えて居り、是によって「がん対策」の具体的な請願に結び付けて住きたいと考えます。

※アンケート内容の概要は、

地方行政の「がん」に関わる施策、情報がどの様に受け止められて居るのか？「がん対策」のどの様な事項を把握されて居て、どの様な事項を必要と去れて居るのか？又、どの様な「がん対策」を望むのか？の様な事項に為るかと考えます。

【目 標】 実施箇所 80 箇所 本数 350 期間 2 開催 集計予定 8 月末

□がん地域サポーターの育成の推進。

これからの「がん医療体制」を考えますと、特に、沖縄では「在宅緩和ケア」に依存せざるを得ないのが実情の様にも思われます。現状の経済状況が、今後大幅に改善されるとは考えにくいと判断しますと、必然的に、「在宅緩和ケア」に踏み切りたくても踏み切れない実情にぶつかります。そこで考えられるのが地域で補い合うシステムの構築ではないでしょうか、その為には、県の「がん対策」に精通し、地域の実情にも詳しい助人、即ち「がん地域サポーター」の育成が必須と考えます。

本プロジェクトでは、この「がん地域サポーター」育成の一つとして、次年度事業の中に「がん情報レター」の発信事業、がん普及啓発ミニ講座「がん出前屋講座」事業に取り組みたい考えです。

■本プロジェクトの展望(未来)

全ての展望は、日本医労政策機構が本プロジェクトを来年度継続共同事業として、承認するかどうか大きな問題ですが、是からの全ての内容は、全て承認去れる事を前提にして居ります。

□本プロジェクトの次年度の展開

本プロジェクトは本年度事業を継続し、新たに下記の事業に取り組みたいと考えます。

- 県内全域に一般生活者を中心にがん患者関係者にも役立つ、がんに関する情報冊子を身近な場所へお届けする事業。

【目 標】 開催箇所 70 箇所 開催数 140 回 来場者数 1100 名 情報提供部数 4400 件

- 国・県の「がん対策」関連団体の最新情報を取り纏め、定期の「がん情報レター」として配布する事業並びに『「がん」のこともっと知りたいと思いませんか?』シリーズの充実事業。

- 国・県の「がん対策」の在り方と、「がん対策」の最新情報を、県民、地域行政担当者を対象に「がん出前屋講座」を開催し、「がん対策」の在り方を、身近なものにして行くお手伝いをする事業。
- 「がん対策」情報、県の「がん対策」の在り方の記載型アンケートを実視し、県の「がん対策」施策に具体的な施策提言する事業。
- 本プロジェクトをサポート戴ける方々を軸に、サポーターの開拓と人的資源を発掘し、「がん普及啓発」地域リーダーを育成する事業。

□一般生活者・地域行政担当者向けがん普及啓発ミニ講座「がん出前屋講座」の定期開催。

「がん対策」予算も施策も、県の実情は上滑りなもので、県民に胸を張れる状況に在るとは言い難い物です。又、地域行政に置いては、目先の案件処理で明日を見る気迫も無いと、言っても過言ではないのが実情だと言わざるを得ません。然し、殆どの県民は、様々な「がん対策」の実情を把握したいと、切望して居ると思われまます。

そこで、本プロジェクトは次年度、県が我々の企画を受諾されるならば、県と我々プロジェクトの共催で地域行政が後援者と為り、離島部で、一般生活者・行政職員を対象とした「がん普及啓発」の一環としての「がん出前屋講座」を、開催する用意が在ります。

是非、全県的な「がん対策」推進の共有化の柱とお考えの上、施策戴きたいと思ひます。

- 【開催目標】 離島部年 6 回 開催時間講演 45 分・報告 60 分・質疑応答 15 分の合計 2 時間 15 分程度 年間動員数 60 名 講師 2 名(内 1 は有識者)。
- 県の役割は、 資料の提供、講師の選定協力、講師の移動宿泊費の負担、広報活動協力。
- 我々の役割は 全体企画、講師の選定、講師への謝金負担、報告講座の進行管理、資料作成。
- 地域行政の役割は 広報活動、行政担当者の動員、会場確保、会場設営、資料作成の協力。

□『「がん」のこともっと知りたいと思いませんか?』シリーズ冊子の充実。

此の冊子の特徴は「がん」の最新情報を出来得る限りリアルに、解り易く提供することを目的にして居ります。

次年度は「これが目で見るベストがんさ〜」(B5 判 100 部)のデータ刷新を始めとし、

- 『仮称 沖縄県の「がん」の医療資源を見る』(B5 判 150 部)
- 『仮称 沖縄県の「がん」対策推進予算を裸にする』(B5 判 150 部)
のコピー製本版の発刊を実施する。
- 国、県のがん対策関連団体の最新情報を取り纏め編纂の上、定期的に「がん情報レター」の様な形状で発信・配布し、「がん地域サポーター」育成に結び付ける。
【目 標】 年 6 回 50 〇からスタート年間 100 〇程度まで拡大。

□一般生活者向けがん読本「がんかわら版」の全巻発刊。

来年度は本シリーズの全巻発刊を目標と、全県的な常設配布場所の確保を使命とする。

- 第二巻 「がん」にかからない為にできること
- 第三巻 「がん対策」の現状はどうなっているのか
- 第四巻 貴方の「がん対策」は? 家族に「がん」の発症があった場合

- 第五巻 あなたに「がん」が発見されたら
- 第六巻 通院・退院後、患者はどうなるの？

※只、非常に残念な事ですが、全ての予算を県民並びに経済界の支援に頼って居りますが、現況の経済状況を鑑みますと苦戦しそうです。県は「がん普及啓発」施策の一環として、直接印刷経費のみでも負担の施策を戴ければ、少なくとも来年度内には確実に達成が可能だと考えます。

※常設配布場所候補は、全県を網羅することを前提に、郵便局と交渉を始めて居ります。

又、都市部対象に大箱美容室も対象と考えて居り、本年度、実験的に 2 箇所先行して実施して居ります。

□「仮称沖縄県がん対策推進委員会」の設置が急務。

本プロジェクトは、「がん対策」推進の抜本的改革が必須と考えて居り、全国的に見ても沖縄の「がん対策」は十分では在りません、因みに平成 22 年度予算額は全国ワースト 2-3 位で在ります。全県民が憲法にも謳われて居る様に、平等に「がん対策」の在り方を享受出来る様、現在の仕組みの歪みを払拭し、民主主義の原点でも在ります様に、全県民が何らかの形で参加の上議論が出来る「場」即ち「仮称沖縄県がん対策推進委員会」の設置が急務と考え、県民の意向を判断するためにも、具体的な取り組みが必要と考え、広域アンケート事業を実施する。

□沖縄独自の小規模多機能介護・ケア施設の開発・設置の提言並びに推進。

沖縄の今後の医療体系を考えますと、如何しても避けて通れないのが特異な地理的条件、そして、厳しい経済状態が大きな足かせと為るのではないのでしょうか。この様な事態を打開する手段の一つとして、民間委託の小規模多機能型介護施設の設置促進に加えて、緩和ケア機能を付加させた地域サポートステーションの役割を待たせる事が可能に為れば、「在宅緩和ケア」のサポートにも為り、訪問診療・在宅療養支援の一元化にも、取り組み易く為るのではないのでしょうか。又、地域の雇用促進にも貢献が可能ではないのでしょうか。其の為の「がん対策」「がん普及啓発」等の知識を持った、「がん地域サポーター」の育成が必須と考え、本プロジェクトは次年度より育成事業に取り組みます。

■お手伝い戴いた県内行政窓口一覧

沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課 成人保健班、医務課 医務対策班、宮古福祉保健所、八重山福祉保健所、北大東村役場 福祉衛生課、南大東村役場 福祉民生課、宮古島市役所 福祉保健部 健康増進課、多良間村役場 住民福祉課、社会福祉法人 石垣市社会福祉協議会、竹富町役場 総務課、与那国町役場 長寿福祉課、

■あとがき

このプロジェクトを立ち上げる切掛けは、昨年 10 月の終わり頃でした。丁度、沖縄県の「沖縄県がん対策推進計画アクションプラン案」を HP のみに掲載し、県行政は情報公開は十分為されて居り、パブリックコメントも十分果たしているとの、見解を崩しませんでした。しかし、沖縄の情報端末の個人普及率を調べますと、全国最下位に在ります。県行政は少なくともこの様な事実は十分把握されて居ると、県民は

受け止めております。其の上に、非常に大きな問題が浮かび上がりました。それはこの「アクションプラン案」を作成するに過程において、県民並びにがん患者関係者が不在であることが判明したのです。即ち、情報開示が全く行われて居ないのです。

この様な矛盾の中、がん患者関係者を取り巻く環境が少しずつ変わろうとして居りました。そして、この様な矛盾を少しでも打開するが為、アナログ的発想のこのプロジェクトが、発案されたのです。

此の一年での成果は、多分投資に見合う成果には程遠い様にも思われますが、要約、種を蒔く為に耕す土が整いつつ在る様に考えます。まさに是からです。如何か育てていくご協力ご支援をお願い致します。

最後に本プロジェクトの今後の動向について

- 本プロジェクトは、来年度計画を申請しており、継続事業と承認されますと、本文でも掲載させて頂いた展望(未来)が、より現実のものとして取り組む事が叶い、又、一つ目的に向かって「がん普及啓発」活動を推進出来ます。其の継続審査発表が今月中頃に予定されて居ります。
- 本プロジェクトが「第28回 日本医学学会総会」の東京ビッグサイトで開催される「地域医療を支える患者・住民活動の“見本市”」会期 2011/4/2(土)~4/10(日)で10月に一次選考に残り、年明けの最終選考発表があります。此のイベントに参加が叶いますれば、全国に本プロジェクトの趣旨と成果が伝えられます。

■資料

新聞各社掲載記事コピー 18面